

# 島と半島の長崎県調べ

西海市立松島小学校 赤瀬 浩

## 1 西海市松島

長崎県西彼杵半島沖に浮かぶ松島は、江戸時代には長崎と上方を結ぶ航路の重要港として栄え、海運がおとろえた後は炭鉱の島として、最盛期には1万人をこえる島民がいました。

現在では炭鉱にかわって大規模な石炭火力発電所がありますが、静かな環境を壊さないように配慮されているため、島は風光明媚で豊かな自然を保っています。

しかし、島民はわずか600人ほどに減少し、本校も児童12名という極小規模校のため平成25年3月の統廃合により長い歴史に幕をおろすことになっています。



長崎県西彼杵半島と松島の位置  
『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.21

## 2 「松島最高」

松島のキャッチフレーズは「松島最高」といい、子どもたちがつくった歌もあります。「松島には 自然がいっぱい いっぱいあふれてる～」という歌い出しから、さまざまな島の景観



「松島最高」自作地図 (作・岩尾成哉)

が歌われています。魚介類としてアラカブ(カサゴ)、イカ、タコ、サザエ。植物としてアコウ。地形として火口跡と思われる遠見岳、隆起した奇岩ラクダ島、ため池と白鳥。その歌詞を手がかりに松島の特長や長崎県の姿へ発展させていこうと試みました。

まず、海岸線だけを表した松島の白地図に「松島最高」に歌われている特長を絵や言葉で書き込ませました。最初は戸惑っていましたが、書き出すとどの子もアイテムが地図からあふれ、たちまち白地図が宝の地図に変身していきました。

次に、児童は作業を通して気づいたことを発表しました。

「まわりがすべて海」

「魚がたくさんいる」

「インドネシアやオーストラリアから石炭を運んだ船がきている」

「海岸がごつごつして岩が多い」

「坂が多く平地が少ない」

「ため池が多い」

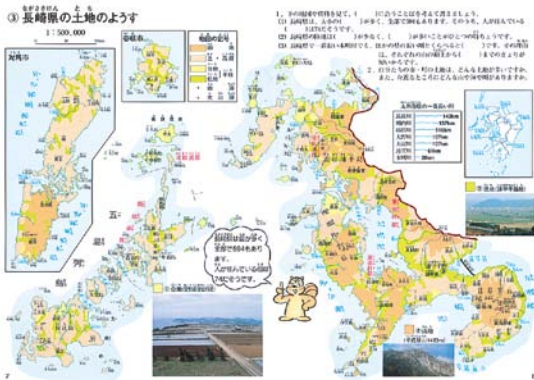
児童は松島の地形と特長には関連があることに気がつきました。



「長崎県地図」部分  
長崎県教育会発行

### 3 島と半島の長崎県

そこで、長崎県の地形図を提示し松島と比較させました。するとこれまで何度も見てきた長崎県の姿に新たな発見がありました。



『わたしたちの長崎県 楽しい地図帳』 p.7~8  
長崎県教育会発行

児童は松島が島であることは十分承知していましたが、長崎県にはほかにもたくさんの島があることに気がつきました。

それだけでなく、長崎県のほとんどの市や町は海に囲まれていたり、面したりしていることもわかりました。試しに島の数を数えてみると大きい島だけでも30以上、小さい島だとさらに数百もあり数え切れませんでした。三方を海に囲まれている地形を半島と教えるとこれも数え切れないほどありました。

児童は長崎県は島と半島でできているという地形の特徴を発見していきました。

また、県の端と思っていた松島の位置が県の中央にあることに児童は驚きました。これまでは島から本土をみるという視点しかなく、島からほかの島や海面を見るという視点がなかったからだと考えられます。

### 4 「日本も大きな島だった」

さらに九州、全国へと地図の範囲を広げて表示すると、県内の五島や壱岐・対馬以外にも大



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.16~18

小ささまざまな島があることがわかりました。「日本で最も大きな島はどこでしょう」と発問したら「沖縄島」「択捉島」などと答えるなかに、「本州」という発言がありました。すると「九州も島です」「北海道も」「四国も」と、日本全体が島であることを発見し驚きの声が上がりました。「大きい半島もある」「紀伊半島のなかには三つも県がある」と半島に目を向ける児童も現れました。



### 5 ローカルとグローバル

この学習を通して、児童は長崎県は島や半島で構成されているが、日本もすべて島と半島からできていることを発見しました。

最初は松島だけを意識していた子どもたちも、地図の活用によって、いわば日本が大きい松島であることに気がついたのです。

松島が宝の島ならば日本は宝の国。「松島最高」はローカルな自慢ではなく、実はわが国土への賛辞に繋がっていたのでした。

※本稿は4・5・6年複式授業TTでの地図指導の実践をまとめたものです。(協力・小浦実教諭、松島小学校児童、地図提供・長崎県教育会、作図 岩尾成哉さん)